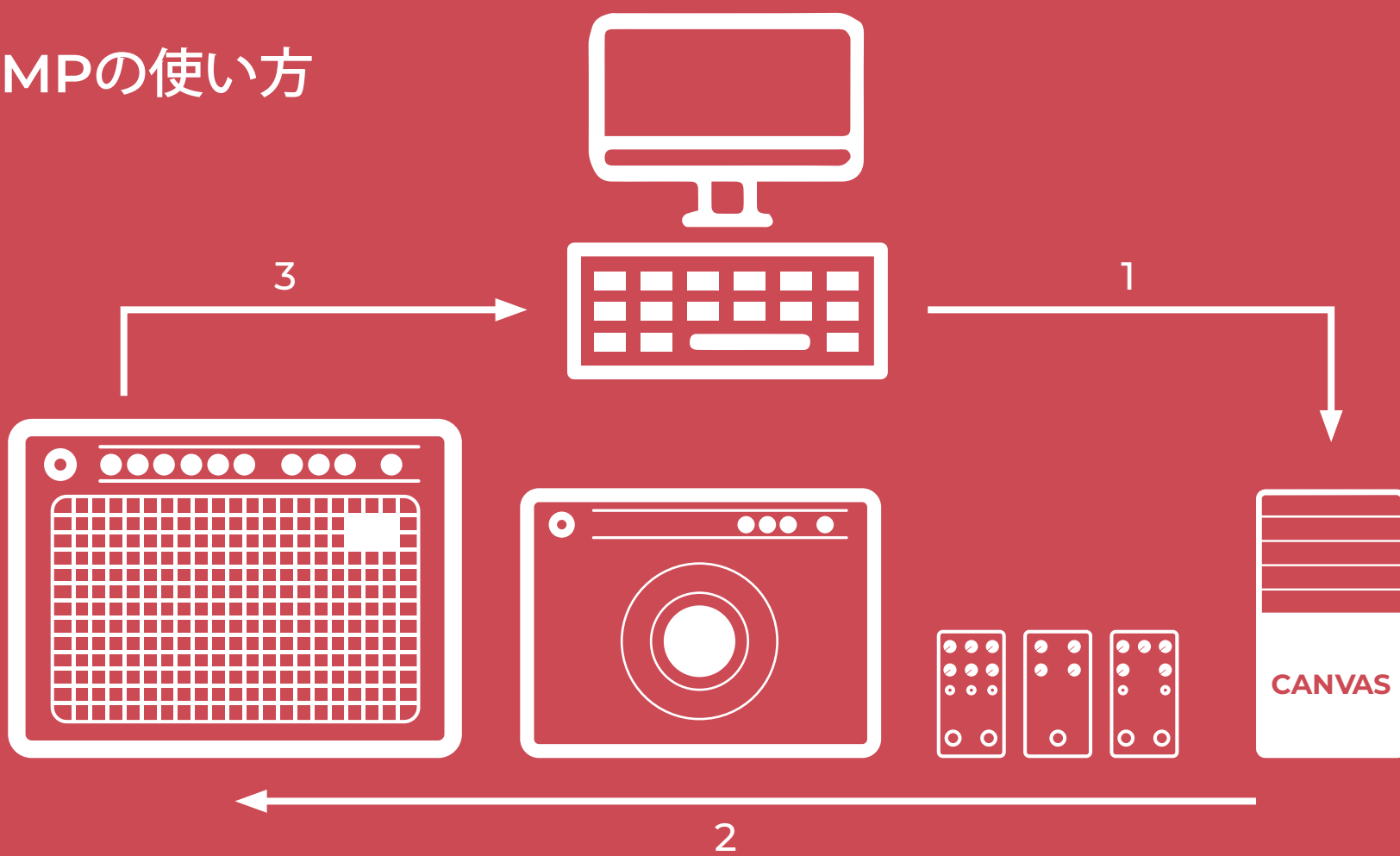




これがCanvas Re-Ampです!Canvas Re-Ampは、セッションで録音したギター、ドラム、ボーカルなどのトラックを、ペダルやエフェクト、あるいは異なるアンプの組み合わせでリアンプするために設計されたパッシブスタジオツールです。Re-Ampは、あなたの楽曲たちに様々な新しい音色を簡単に与えてくれることでしょう。

スタジオでの貴重な時間を音色選びに費やすよりも、まずは最初にレコーディングをして、その後にお好みのアンプやペダルを組み合わせでリアンプしましょう!

RE-AMPの使い方



1. DAWからXLRか1/4インチ(6.3mm)プラグ/ジャックを経由してCanvas Re-Ampにオーディオトラックの信号が送信されます。

2. Re-Ampを経由してアンプシミュレーターやマイク録音されたギターアンプに出力されます。

3. ペダル/アンプを経由して信号はDAWに戻ります。



Volume: あなたのペダルボードやアンプに送信されるリアンプ信号のレベルをコントロールします。

Input XLR Jack: XLR入力端子:オーディオインターフェイスの出力からXLRケーブルをバランスラインレベル入力に接続します。

Input 1/4" Jack: 1/4インチ(6.3mm)入力端子:オーディオインターフェイスの出力から、XLR入力と並列に動作するバランスラインレベル入力に1/4インチケーブルを接続してください。

Output Jack – 出力端子:1/4インチ(6.3mm)ケーブルを接続し、楽器レベルのトランス絶縁出力からペダルボードやアンプに接続することができます。



GND Lift: 押すことにより、XLR入力のGNDピンが分離し、グラウンドループによるハムノイズが軽減されます。通常使用時は使用しないでください。

注意:Canvas Re-Ampは、入力信号と出力信号をトランスで分離していますが、共通グラウンドがあるため、グラウンドハムが発生する可能性があります。GND Liftが押された場合でノイズが発生した場合は、入力グラウンドを上昇させることで、出力からハムノイズを除去することができます。

MUTE: MUTEボタンを押すことで、1/4インチ(6.3mm)入力の出力をミュートします。通常使用時は使用しないでください。それがスタジオで録音されたトラックであっても、マイクの配置の調整時や、シグナルチェーンにペダルを追加する際などでは、ミュートすることで信号がDAWに到達せず、アンプへ送信されるオーディオトラックが再生されないため、便利にお使いいただけることもあります。

PHASE: PHASEボタンを押すことで、出力信号の極性を180度反転させます。通常使用時は使用しないでください。

HPF: HPFボタンを押すことで、200 Hzで上品なハイパスフィルターが作動します。通常のフラットな周波数特性での動作の場合は、使用しないでください。例え綺麗にしっかりと録音されたオーディオトラックであっても、アンプやペダルのシグナルチェーンによっては、信号の低域の鳴りを抑える必要がある場合があります。

位相反転が使える場合:

アンプ、ペダルやオーディオトラックに反転させる必要性があった場合。

マイク録音したアンプと組み合わせたときの位相キャンセルを低減させたい場合。

Canvas Re-Ampを2台使用し、2台のアンプで同時に録音した場合に生じる片方のアンプの位相のズレの修正する場合。

アンプを録音するために複数のマイクを使用する時や、特に共鳴を起こしやすいルームマイクを使用する場合。

2チャンネルインターフェイス接続 — ペダルのみ

- 入力1:モノラルでリアンプした音声をインターフェイスに戻します。
 - これはシグナルチェーンの最後のギターペダルからの出力です。
- 入力2:モノラルのリアンプされたオーディオをインターフェイスに戻したり、2台のCanvas Re-ampを使用してステレオリアンプの2つ目の入力として使用することができます。入力1か入力2のどちらを使うかは、お好みでお選びいただけます。ただし、ペダル使用時は1チャンネルにつき1台のCanvas Re-Ampが必要となります。
 - これはシグナルチェーンの最後のギターペダルからの出力です。
- 出力1:通常は、左側のモニター出力として機能しますが、2チャンネルのみのインターフェイスを使用してリアンプする場合は、モニターを外し、出力1でペダルやアンプに接続する必要があります。
- 出力2:通常は、右側のモニター出力として機能しますが、2チャンネルのみのインターフェイスを使用してリアンプする場合は、モニターを外し、出力2でペダルやアンプに接続する必要があります。出力1か、出力2のどちらを使うかはお好みでお選びいただけます。両方の出力を使用してステレオリアンプを行うことも可能ですが、1チャンネルにつき1台のCanvas Re-Ampが必要となります。

2チャンネルDAWルーティング — ペダルのみ

- オーディオトラック1:このトラックには、リアンプしたいソースオーディオファイルが含まれています。このトラックには何も録音しないので、DAW上の入力を「なし」に設定してください。使用するチャンネルに応じて、出力1または出力2をモノラルに設定します。
- オーディオトラック2:このトラックに、リアンプされた信号が録音されます。このトラックの入力を、リアンプした信号が接続された任意の入力(入力1または入力2のいずれか)に設定します。録音を有効にし、設定中とトラックの録音中はミュートにしてください。入力モニターは有効にしないでください。
 - このトラックをミュートしない場合、リアンプされた信号がさらにリアンプされ、位相やフィードバックの問題が発生することがあります。
 - 入力モニターを有効にすると、DAWで大きなフィードバックが聴こえることがあります。
- オーディオトラック3:追加トラックを使用して、オーディオトラック2と同じ手順で設定を変更し録音したり、ペダルの2つ目の出力から録音する場合に使用します。

2チャンネルDAWレコーディング

- 録音する場合は、録音を押して、オーディオトラック1のファイルを再生します。ミュートの状態でオーディオトラック2が録音されていることを確認してください。DAWのレベルメーターで信号が正しく通過していることを視覚的に確認することができます。
- 録音が終了したら、停止を押します。
- 録音が終了したら、オーディオトラック2の録音状態を無効にします。これによって、オーディオトラック2にはリアンプされたオーディオが残ります。オーディオトラック2のミュートを解除し、オーディオトラック1をミュートして、再生ボタンを押します。これによって、オリジナルのDIトラックなしの、リアンプされた音のみが聴こえます。
- 出力が2つしかないインターフェイスでは、ペダルのみを経由するリアンプされた信号をリアルタイムでモニターすることはできません。入出力のルーティングをコントロールできるDAWを使用することを推奨しています。

2チャンネルインターフェイス接続 — アンプおよびマイク

- 入力1:モノラルでリアンプしたオーディオをインターフェイスに戻します。
 - こちらはアンプの正面に配置されたマイクの出力です。
- 入力2:モノラルでリアンプしたオーディオをインターフェイスに戻します。
 - マイクを2本使ってアンプ録音をする際の、2本目の入力として使用します。1本のマイクのみを使用する場合、リアンプした信号を入力1か入力2のどちらを使用するかは、好みでお選びいただけます。
- 出力1:通常は、左側のモニター出力として機能しますが、2チャンネルのみのインターフェイスを使用しリアンプする場合は、モニターを外し、出力1でペダルやアンプに接続する必要があります。
- 出力2:通常は、右側のモニター出力として機能しますが、2チャンネルのみのインターフェイスを使用しリアンプする場合は、モニターを外し、出力2でペダルやアンプに接続する必要があります。出力1か、出力2のどちらを使うかは好みでお選びいただけます。両方の出力を使用してステレオリアンプを行うことも可能ですが、Canvas Re-Ampは1チャンネルにつき1台必要になります。

2チャンネルインターフェイスDAW接続 — アンプおよびマイク

- オーディオトラック1:このトラックには、リアンプしたいソースオーディオファイルが含まれています。このトラックには何も録音しないので、DAW上の入力を「なし」に設定してください。使用するチャンネルに応じて、出力先を出力1(モノラル)または出力2(モノラル)に設定します。
- オーディオトラック2:このトラックに、リアンプされた信号が録音されます。このトラックの入力をリアンプした信号を接続する入力として選択した入力1または入力2のいずれかに設定します。録音を有効にし、設定中とトラックの録音中はミュートにしてください。入力モニターは有効にしないでください。
 - このトラックをミュートしない場合、リアンプされた信号がさらにリアンプされ、位相やフィードバックの問題が発生することがあります。
 - 入力モニターを有効にすると、DAWで大きなフィードバックが聴こえることがあります。
- オーディオトラック3:追加トラックを使用して、オーディオトラック2と同じ手順で設定を変更し録音したりオーディオ入力2を使って2つ目のマイクで録音したりする場合に使用します。

2チャンネルDAWレコーディング — アンプおよびマイク

- 録音する場合は、録音ボタンを押して、オーディオトラック1のファイルを再生させます。ミュートの状態でオーディオトラック2が録音されていることを確認します。DAWのレベルメーターで信号が正しく通過していることを視覚的に確認することができます。
- 録音が終了したら、停止を押します。
- 録音が終了したら、オーディオトラック2の録音をオフにします。これでオーディオトラック2には、リアンプされたオーディオが残ります。オーディオトラック2とオーディオトラック1のミュートを解除して、再生ボタンを押します。これで、リアンプされたトラックだけが聴こえ、元のDIトラックは聴こえなくなります。
- リアンプ信号をアンプに送る場合、アンプから出力される音を聴くことはできますが、DAWに入力されるマイク信号をリアルタイムにモニターすることはできません。そのため、入出力のルーティングをコントロールできるDAWを使用することを強く推奨しています。

マルチチャンネルインターフェイス接続

- 手順は2チャンネルインターフェイスの手順と同様ですが、複数の出力があり、入出力信号の流れをルーティングできるDAWを使用する場合、異なるペダルボードやアンプに信号をルーティングし、リアンプした信号をリアルタイムでモニターできます。
- 入力1:モノラルでリアンプした音声をインターフェイスに戻します。
 - これはギターペダルの出力や、アンプの前に置かれたマイクの出力などになります。
- 入力2:リアンプされたモノラルのオーディオをインターフェイスに戻すか、2台のCanvas Re-ampでステレオリアンプした際の2つ目の入力として使用することができます。
 - これはギターペダルの出力や、アンプの前に置かれたマイクの出力などになります。
- 入力3、4、以上:それぞれ別のペダルチェーンを録音したり、複数のマイクを使ってアンプを録音する場合は、入力3以降のチャンネルを使用します。
- 出力1:基本的には、左モニター出力として使用します。
- 出力2:基本的には、右モニター出力として使用します。
- 出力3:リアンプしたいDIトラックの出力として使用します。
- 出力4、5、6以上:これらのチャンネルも、リアンプしたいDIトラックの出力としても使用することができます。

マルチチャンネルインターフェイスDAWルーティング

- 2チャンネルインターフェイスと同様に、異なる入出力を選択し、複数のマイクやペダルのシグナルチェーンなどをルーティングすることが可能です。
- オーディオトラック1:このトラックには、リアンプしたいソースオーディオファイルが含まれています。このトラックには何も録音しないので、DAW上の入力を「なし」に設定してください。出力は出力3または出力4のいずれかに設定し、メインモニター出力(通常は1および2)以外の出力を使用してください。これにより、リアンプされた信号をリアルタイムでモニターすることができます。
- オーディオトラック2:このトラックに、リアンプされた信号が録音されます。このトラックの入力を、リアンプした信号が接続された任意の入力に設定します。録音とインプットモニタリングを有効にします。このトラックの出力を、メインモニター出力(通常はチャンネル1および2)に設定します。これにより、リアンプされた信号をリアルタイムでモニターすることができます。
- オーディオトラック3以上:複数のマイクの使用や、複数のペダルのシグナルチェーンを使用する場合は、オーディオトラック2の手順を繰り返します。

マルチチャンネルインターフェイス録音

- 録音する場合は、録音を押して、オーディオトラック1のファイルを再生させます。オーディオトラック2が録音されているかは、レベルメーターでオーディオを受信していることが視覚的に確認でき、リアンプされたサウンドをリアルタイムにてモニターで確認できます。

Technical Info

周波数特性:20Hz~20kHz

THD+N:0.07% @ 20Hz / +4dBu インプット

0.001% @ 1kHz / +4dBu インプット

最大入力レベル:+21dBu @ 20Hz

ノイズ・フロア:-116dBu

信号対雑音比(SNR):114dB @ 1kHz

入力:バランスラインレベル

入力インピーダンス:3k Ohms

出力:アンバランスインストルメンタルレベル

出力インピーダンス:2.5k Ohms

同相信号除去比(CMRR):79dB @ 20Hz / +4dBu インプット

電力要件:なし — パッシブ

オーディオサーキット:絶縁変圧器

サイズ:

高さ:123mm

幅:77.6mm

奥行:41.9mm

